

平成28年度社会教育・公民館等職員研修会Ⅲ

日時：平成28年10月12日（水）10:00～15:45

会場：県行政庁舎 講堂

〔ねらい〕

社会教育・公民館等施設で展開されている社会教育の現状を理解しながら、効果的な事業づくりの手法について学ぶ。また、県内公民館等の先進事例から、社会教育事業を発展させていくプロセスを理解し、住民の学びを広げ、深めていく手法を学ぶ機会とする。

〔参加者〕

市町村等教育委員会職員、公民館等社会教育関連施設職員、社会教育主事等社会教育関係職員

71名

〔内 容〕

午前：講話「学びを広げ、深めるプログラムづくり」

講師：千葉大学 非常勤講師 越村 康英 氏

午後：事例発表・ワークショップ

「社会教育事業を発展させていくプロセス～公民館が地域課題の解決を支援する～」

発表者：大崎市西大崎地区公民館 館長 片倉 美智子 氏

「社会教育実践のために必要なこと」

発表者・ファシリテーター：仙台市榴ヶ岡市民センター 主任 笹川 圭子 氏

コメンテーター：千葉大学 非常勤講師 越村 康英 氏

受講者振り返りシートから

- ・ プログラムづくりについて、日頃行っていることであるが、順序立てた話を聞くことで改めて整理し、自分に落とし込むことができた。自分のやってきたことが間違っていなかったと安心することができた。
- ・ 研修会で紹介された事例について、公民館というものが地域に対してよりよい施設となるきっかけをつくることのできるような有意義な内容であった。
- ・ 一つの教室、講座をつくりあげるのに複数のステップがあるのを認識した。これまで実施した講座は、基本コンセプトが明文化されていなかったもので、新規講座だけでなく、これまでの講座についても見直しを図りたい。
- ・ 地域のニーズの掘り起こしがいかに大切なのかということが分かった。今後に生かしたい。
- ・ 地域のつながり、地域の方々への言葉がけの大切さを再認識した。小さな地域だからこそ、丁寧に地域の人達とつながっていききたい。
- ・ 公民館における講座のつくりかたについてとても参考になった。このことは、講座だけでなく、事業を進める上で大切なことだと思った。地域の方々の近くでものごとを考えることができる自分でありたいと思った。
- ・ 生涯学習推進計画を作成中であるが、行政側からの提案だけでなく、市民の声を反映して作成していくことが大切であると改めて思った。



- ・ 何年働いても基本は大切である。それから、情報共有の大切さを感じた。つながることの大切さは、仕事場でも、研修会でも同じであると思った。
- ・ これまでの講座や事業を計画するときは、以前のものや、近くの公民館で行ったことを参考にするだけであったが、今後は今回の講話を参考にして、講座づくりに取り組んでいきたい。
- ・ 担当事業について、講座を立ち上げるという発想がこれまでなかったが、話を聞いているうちに、講座を立ち上げることで、点でしかなかった各事業を線でつなぐことが可能になるかもしれないと思い始めた。
- ・ 本日のグループワークは、事業担当者として10年以上のキャリアの方もいて、様々な視点の話を聞くことができた。
- ・ 本日の研修を受講し、地域の課題を掘り起こすことは社会教育の第一歩だと改めて感じた。現在行っている事業がどのような課題から生まれ、今に至っているのかをもう一度振り返り、整理することが必要だと思った。よりよく生きるための社会教育であるなら、よりよく生きる選択肢も現在では多様になってきており、その多様な考えに積極的に触れることが大事であるとする。
- ・ 社会教育の本質を少し理解できたように思う。講座や事業はあくまでも「きっかけ」であり、最終的には参加者が「能動的」に行動できるようになるのが理想であると思う。今後、事業の展開、講座の実施の際は、ただ漫然と実施するのではなく、その活動を通して最終的に参加者が、何か主体的に行動できるようになることを意識したい。
- ・ 「社会教育とは住民主体の学習であること」「公民館職員は支援者であること」について、そのとおりだと思った。日頃、頭の片隅にあっても、講座を運営するときには、担当職員（自分）がその場をコントロールしなければならないと思ってしまったり、学びの場のイメージを固めてしまったりしてしまいがちであったので、主体が学習者であることを再認識することができた。学習者が主体的に、楽しく学ぶことができる場づくり、関わり方について、職場でも話し合ってみたいと思う。
- ・ 今後の事業について、毎年行っている事業も前年同様ではなく、「何を、何のために、誰に向けて」を考えながら見直し、事業の運営も「起承転結」を参考に、ストーリー性をもったプログラムを作成したい。
- ・ 今後の課題は、地域文化祭実行委員の中に後継者を育成し、その後継者にうまく引き継がれていくように人材を育てることである。現実行委員と協力しながら、後継者の育成に努めていきたい。
- ・ 青年達が自らグループを立ち上げて、地域とかがかわることができるようになる支援を公民館で行いたいと強く思っている。
- ・ 今回の研修を受けて私が取り組みたい社会教育の実践とは、市民との「信頼関係を築くこと」である。そもそも社会教育の実践とは、「信頼関係を高めていくこと」であり、さらに発展して、その「輪を広げていくこと」ではないかと考える。
- ・ 今回の研修全体を通して一番考えたことは、「実生活に即する」ということである。越村先生の講話の中で社会教育法第3条第1項を取り上げた一節だが、その後の片倉館長の発表事例や笹川主任の発表事例でも重要なポイントになっていた。地域の方との語り合いの中からニーズをくみとったり、社会問題から地域住民が今、真剣に考えるべきだと感じたことを事業の中で投げかけたりするなど、住民に寄り添った姿勢や方法を考えることが社会教育のスタートだと感じた。
- ・ 本日のグループワークの話し合いの中で感じた「職員自身も楽しむこと」を心がけながら、震災から復興に向けて取り組む町の方々に笑顔になってもらえる事業を実施していきたいと思う。

